

# Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局  
**東部教育局**  
 〒680-0846鳥取市扇町21番地  
 東教発 H25.4.16 №.119  
<http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

## 情熱と志をもって 局長 久岡賀代子

新年度を迎え、各校とも校長先生の学校経営ビジョンのもと、全教職員が一丸となって希望に満ちたスタートをきられたことと思います。

昨年度に引き続き、鳥取県の子どもたちが自らの力で明るい未来を切り拓いていくことができるよう、県知事と県教育委員会とが「教育振興協約」を締結しました。

本年度、東部教育局は、「東部地区各小中学校と市町教育委員会の自主・自立の確立に向けての指導・支援と協働」をミッションとして掲げ、「育成とつながり」をスローガンに、市町教育委員会、学校・教職員や地域の方々から信頼される教育局となるよう、迅速かつきめ細かな対応を心がけていきます。県の施策をより実効性のあるものとし、教育効果を上げていくため、職員一同、総力を挙げて取り組んでいく所存であります。本年度もよろしくお願いいたします。



学校における今日的課題が生起する中、教員の世代交代が今後さらに加速していきます。学校は学校力の維持・発展のためにOJTの発想で教職員を育成することも急務となっています。

今年度の講師辞令交付式において、次のような話をしました。



- 何よりも子どもたちを愛し、愛おしいと思う心を持ち続けてほしい。
- 自らの姿をモデルとして示し、子どもに伝えていく能力や態度を磨いてほしい。
- 相手の心の扉を開けるコツを身に付けてほしい。
- 経験すること、出会う人すべてが教材である。特に先輩教職員の優れたところをしっかりと吸収してほしい。
- 苦しいときこそ、教師を志した初心に立ち返ってほしい。

子どもたちは、限りない可能性を秘めた存在です。プロである私たちは、その一人一人の可能性を伸ばしていく質の高い教育をめざさなければなりません。教育に対する熱い情熱と高い志を持ち続け、悔いのない取組に邁進できることを心から願っています。



## 育ちと学びがつながるために

子どもたちが学び続ける力を身に付けるためには、校種間連携を深めながら、学びの質を高めていくことが大切です。子どもも主体的に学ぶ姿を、校種を超えてつなげていきましょう。

目の前の子どもたちの  
きた道を知る、ゆく道を知る

↑鳥取県のめざす子どもたちの姿と  
取組のポイント↓



遊びきる子ども

夢や希望に向かって、学び続け、  
チャレンジする子ども

郷土を愛し、自ら学ぶ  
知・徳・体のバランス  
のとれた人

幼稚園・保育所  
認定こども園

小学校

中学校

高等学校

### ＜相互理解＞

- ★中学校区の公開保育・授業研究会などに参加する。
- ★互いの校種の教育内容を知る。
- ★中学校区のめざす子どもたちの姿を共有する。

### ＜学びの質の向上＞

- ★主体的に学ぶための保育・授業づくりを進める。
- ★「とっとりの学び10の視点」を授業に取り入れる。



参考：学校教育のめざすもの、幼児教育振興プログラム

# しっかり遊び、やる気を高める

新学期がスタートしました。子どもたちが学習に向かう姿勢や表情はいかがですか。新しい環境の中ではりきっていることと思いますが、その一方、緊張して疲れがたまりやすい時期でもあります。心のリフレッシュや学級の和づくりを兼ねて、休憩時間等でしっかりと遊ばせましょう。



## 遊びや運動の重要性

「子どもの心と運動の関係性について」  
筑波大学 阿部一佳先生の講演より

### 発達段階に応じたスキルを身に付ける

子どもたちは小中学校の間に、運動や遊びの中で様々なスキル（技能）を習得していく。

- ・小学校下学年…『コーディネーション能力や柔軟性』
- ・小学校上学年～中学生…『スピードやテクニック』

### 人間関係を築き心を育てる

集団で遊ぶことによって初めて、身に付けられることがある。（心・態度）

- ・友達と協力する
- ・折り合いをつける
- ・ルールを守る
- ・所属感を感じる
- ・相手に優しく接する

### 活動の意欲をさらに高めるには

遊びや運動の様子を見て、その子のよさや頑張りを発見し、ほめる。ほめられることによって子どものプラス思考は育つ。  
「教師の言葉は、魔法の言葉」

児童生徒理解や学級づくりのきっかけが、子どもたちの遊びの姿から見えてきます。教師と一緒に遊んだり、子どもに声かけしたりすることで、子どもたちの学校生活に向けての活力も高まります。

## －転出者の紹介－

学校教育係 係長  
学事係 管理主事

音田 正顕  
蓮佛 俊敬

(鳥取市立河原中学校へ)  
(特別支援教育課へ)

## －転入者の紹介－

学校教育担当  
学校教育担当

指導主事  
指導主事

平山 晋治  
西墻 明

(鳥取市立南中学校から)  
(鳥取市立東中学校から)

## 東部教育局内の担当分掌を紹介します

局長 久岡 賀代子 次長 網川 昭夫

### 学事担当 TEL 22-1601

名前	主な分掌
吉田	○中学校人事管理
福田	○教職員の給与・旅費 ○事務指導
徳高	○小学校人事管理

### 社会教育担当 TEL 22-1604

名前	主な分掌
網川	○社会教育の推進
寺谷	○社会教育 ○地域との連携・人材

### 学校教育担当 TEL 22-1602, 1603

名前	主な分掌
小林	○学校教育指導の総括 ○市町教委訪問・学校訪問 ○市町教委・関係課との連携 ○学校経営・運営
小谷	○幼稚園の教育課程 ○幼児教育 ○健康教育 ○研修派遣
岡本	○小学校の教育課程 ○エキスパート教員 ○図書館教育 ○研究指定校の研究推進 ○校種間連携 ○八頭郡・岩美郡の小学校教育
中林	○特別支援教育 ○福祉教育
平山	○中学校の教育課程 ○校内研究 ○初任研・経験者研修・教職員研修 ○道徳教育 ○国際理解教育 ○鳥取市の中学校教育
中村	○生徒指導 ○環境教育 ○教科用図書事務 ○学校体育 ○鳥取市の小学校教育
西墻	○学力向上 ○情報教育 ○キャリア教育 ○進路指導・高校入試 ○人権教育 ○八頭郡・岩美郡の中学校教育
今西	○高等学校教育相談 ○安全教育
山口	○高等学校教育 ○中高の連携



## お知らせ

※学事係は学事担当へ、学校教育係は学校教育担当へと名称が変わりました。



私たちは第30回全国都市緑化とっとりフェアを命じます

**オアシス とっとり2013**

TEL 250-021000-41010000

〒680-0001 鳥取市 山崎公園(旧市庁舎)

ウツクシイ公園 東部緑化センター

<http://oasistottori.jp/> オアシスとっとり 検索

## スタートに当たって

## 学級づくりが基本

子どもたちにとって学級は『安心で安全な場所』であることが最も大切です。例えば友達同士の関係がうまく築けずいつも気を遣っている学級では、教師がうまく授業を行ったとしても、勉強でも運動でも力を発揮できないことが多いものです。学級が安心で安全な場所となるよういくつかのポイントを紹介します。



## ポイント① 児童生徒と教師とで、学級目標をつくり上げる

## ○担任は『学級に対する思い』を伝える

・「1年間でこんなクラスになりたいね。」学級開きの言葉は、児童生徒の心にしっかりと残ります。

## ○学級会を開く

・1回目の司会は担任です。「どんなクラスになりたいか」「どんなことを達成したいか」など、児童生徒の思いをしっかりと出させます。

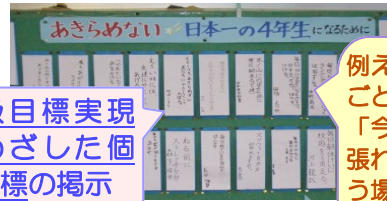
## ○学級目標はそのクラスに合った象徴的な言葉で

・児童生徒の思いを一言で表すような象徴的な言葉でまとめます。なぜその言葉になったのかなども掲示しておくといよいでしょう。  
(サブの目標として知・徳・体にまとめて掲示しておく方法も有効です。)

## ★「学級目標に対する個人目標の設定」

学級目標は、意識され振り返ってこそ効果があります。学級目標を実現するために自分はどのように取り組むのか、『個人目標』を立てさせましょう。  
(個人目標は短期で振り返ることが大切です。)

学級目標実現をめざした個人目標の掲示



例えば、1週間ごとに振り返り「今週はよく頑張れたな」という場合にはシールを貼ります。

## ポイント② まずは教師が、児童生徒との人間関係をつくる

## ○毎日、全ての子どもと一話を心がける

・朝、教室で顔を合わせたとき、委員会や係の仕事に取り組む姿を見かけたとき、提出物を持ってきたときなど、温かい一声のチャンスです。

## ○子どもが思いを出しやすい場を設定する

(一言日記、班ノート、教育相談など)

※教師と児童生徒の良好な人間関係がなければ、児童生徒同士の間人間関係も良好になりません。普段から子どもとともに喜んだり悲しんだりできる教師でありたいものです。

## ★「教師として、大人の目線も」

子どもと友達同士のよう言葉遣いで話す方があります。教師は、児童生徒を導く立場にある、道標となるべき存在です。友達感覚で距離が近すぎることはどうでしょうか。適切な距離感などバランスも大切です。



## ポイント③ 学級のルールをみんなで作る

## ○課題を具体的に提示し、解決方法を話し合わせる

・学級活動で学級のルール等を話し合わせます。課題に直面したときに力を合わせて乗り越えた経験は、大きな力となります。

## ○みんなで決めたことは必ず取り組み、振り返りを丁寧に行う

・ルールづくり(話し合い)と実践を繰り返すことで、「自分たちの学校生活は自分たちでつくる」という意識が育ち、個々の規範意識も向上します。

## ★「正義が通る学級経営を」

クラス替え後の年度初めはルールが確立していない状態です。まずスタートは教師が方向付けをします。学級会等を重ね、徐々に児童生徒を育て、後半は「任せ切る」ことのできる学級づくりをめざしたいものです。教室の空気は、児童生徒同士の間にある関係性です。

